

大学院における高度科学技術人材の育成強化WG

(論点メモ)

1. 人材育成目的の具体的発信

【課題解決の方向性】

- 各大学院は、人材育成目的を、国際的水準で早急に具体化し、産業界を含む社会へ発信。

【論点の例】

- 専攻としての具体的教育目標を掲げることに教員が積極的意義を感じていないという意見があるが、どうか。
- 設置基準改正を契機として、取組が進みつつあるという指摘もある。
- 本人が将来社会で自立して活躍する素地を伸ばしていくという視点を強調していくべきではないか。
- 国際的水準とは何か。具体的な内容を見える形にする必要があるのではないか。
- 抽象的な人材育成目的ではなく、社会や産業界の理解が進むよう、大学の特徴が他大学と比較検証できる形での見える化が必要ではないか。

2. 伝承型から体系型へ

【課題解決の方向性】

- 各大学院は具体化された人材育成目的に合致した体系的カリキュラムや教育プロセスを構築・発信。

【論点の例】

- 修士課程と博士課程を区別して考える必要がある。
- 「体系的」とは何か。コア・カリキュラムがあり、選択科目があるというだけで不十分か。どのようなカリキュラムが体系的と認められるのか。
- 産業界・社会は大学院に対し、必ずしも高度な専門的知識の教授を求めているのではなく、これらを獲得していく「素質」を育成することを要求しているのではないか。こうした要請に対応しうるカリキュラムや教育プロセスとは何か。
- 社会のニーズに対応したコースワークの徹底、カリキュラムの体系化は何年も前から、様々な場面(3期基本計画等)で指摘されている事柄。何故繰り返し指摘されるほど、取組が進まないのか。

- そもそも大学院は自ら学ぶところであって、人から教わる場所ではない。あるいは授業に頼らないと学べない大学院生は如何なものかという考え方が根強くあるのではないか。
- 全体に関わることでもあるが、大学院を修了して産業界で活躍している若手・中堅の職業人の声を大学院教育に反映させていくべきではないか。このような「声」をどのように把握するか。

3 . 大学院生への経済的支援

【課題解決の方向性】

- 国や産業界は、優秀な大学院生への経済支援を充実し学生の社会的自立を促す。

【論点の例】

- 自立と経済的支援は表裏一体。この意識をどのように浸透させていくか。
- 優秀な大学院生の選抜はどのようにあるべきか。
- T A ・ R A の認知度を一層高めるため、財政的支援に加え、その制度上の位置づけの明確化を図ることはどうか。また単位化は考えられないか。

4 . 自立を助ける適性指導

【課題解決の方向性】

- 各大学院は、教育プロセスにおいて、各人の適性に応じた、複数教員による逐次的な進路指導を実施。

【論点の例】

- 大学教員等の採用者数と博士課程修了者数を比較すると、後者が前者を大幅に上回る状態（2006年度で約5～6千人超過）が続いている。こうしたマクロ認識を各教員が共有している必要があるのではないか。
- この意味からも進路指導の積極的意義を各教員が再認識していく必要があるのではないか。
- 複数教員の相互検証による進路指導の意義をどのように考えるか。

5 . 適切な教育活動の評価

【課題解決の方向性】

- 各大学院は、教員の教育面の取組状況を、研究科等の組織の責任の下で適切に評価する制度を構築。

【論点の例】

- 先導的な取組は行われているが、給与等の処遇に反映させているところは少数に留まっている状況にある。これをどう評価するか。

- 教育の評価は定量的・客観的評価になじまないという意見も根強い。
- 一方で、研究業績による評価も課せられるので、優秀な教員の負担感が重いという指摘をどう考えるか。

6 . 能力、到達度の質の確保

【課題解決の方向性】

- 各大学院は、教育プロセスの「見える化」により、国際的に活躍できる学位取得者の質を保証。

【論点の例】

- 「国際的通用生」とは何か。
- 博士取得条件としてレフリー制度のある学術雑誌への論文掲載を求めている例も多い。アカデミアでの研究者育成目的ならばこれが「質の保証」となるが、産業界で活躍する人材育成目的に関しては、これが同様に当てはまるのか。
- 学位レベルを図る他の指標は考えられないか。

7 . 博士の適性評価

【課題解決の方向性】

- 産業界は、厳正な評価によって学位取得した博士号取得者を積極的に採用。

【論点の例】

- 大学院において「優秀」と認められる博士号取得者と産業界で「優秀」と捉える博士号取得者の資質・能力に関し、ミスマッチが大きいのではないか。
- 学位論文の優秀さではなく、基礎的素養を有し、幅広い高度専門能力を獲得する「素質」を重視するという産業界の姿勢にどのように応えることができるか。
- 産業界は、優秀な博士号取得者に対して、給与やキャリアパスなどの面を差別化して、情報発信すべきではないか。